

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや ちくさ WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 〒464 千種区池下一丁目4番18号
 井上ビル4F D号
 Tel 763-5110
 会長 加藤大豊

見つけよう 奉仕の新生面
 Discover a New World of Service

No. 48

1984~85年度 RI 会長 カルロス・カンセコ

第142回例会 昭和60年6月11日 (火) 晴

◇“奉仕の理想”

◇出席報告

会員 55名 出席39名
 出席率 72.22%
 前回 6月4日 (修正出席率) 98.18%

make up

浅井君(6/5 和合), 古川君(6/8 守山), 堀江君(6/6 瑞穂), 林君(6/7 港), 加藤(内)君(5/30 大須), 木全君(6/5 和合), 松藤君(6/5 南), 三輪君(6/7 北), 水野(内)君(6/6 西), 永井君(6/5 名北), 大口君(5/30 瑞穂), 尾関君(6/5 和合), 笹野君(6/6 東南), 菅原君(6/3 中), 武内君(6/5 和合), 手島君(6/8 守山)

◇ビジター紹介 8名

◇お誕生日祝福 浅井君(6/1)

◇ニコボックス

山田峯夫氏(先回卓話をさせて頂きました), 谷口君(大勢の方のお世話で, 楽しい旅とゴルフをさせて頂きました), 永井君(小坂井さんお世話になりました), 久保田君(早退させて頂きます。申しわけございません), 竹内君(久しぶりにおいしいDinnerを頂戴しました。有難うございました), 黒野君(日展審査員に就任することになりました), 加藤(内)君(先日は御夫人をまじえ, 年度末の一泊懇親旅行会が楽しく出きました。親睦(ゴルフ, 食べ歩き, 麻雀会)の各幹事さんに心から御礼申し上げます), 黒須君(スピーカーの深谷教授を紹介させて頂きます), 鷺野君(賢島ゴルフ会で優勝させて頂きました), 古川君(「乱」完成封切。大入り大成功), 浅井君(お誕生日祝)

◇谷口幹事報告

1. 本日例会終了後, 次年度クラブ奉仕委員会を開催致しますので, 2F 琴の間にお集り下さい。
2. 次回は P. M. 16:00 より次年度 クラブアセ

ンブリーを, P. M. 18:00 より今年度最後のクラブアセンブリーを開催致しますので, 昼間の例会はございません。

3. 当クラブでも今度, アメリカより交換学生をお迎えしたいと思いますので, 皆様の中で半年間, 学生をお世話いただける方はお申し出下さい。

4. ロータリーの友6月号が来ておりますので, お帰りの時にお持ち帰り下さい。

◇加藤大豊会長挨拶

さて, メンバー諸兄の中には国際交流で, 又ビジネスや観光でスイスに行かれた方も多くと存じます。スイスは永世中立国として有名ですが, それを守る為には大きな努力がなされています。戦争をしないからといって軍隊がない訳ではなく, 寧ろ強力な軍隊を持っています。①国民を総動員した国防軍, ②精神(心理)防衛, ③民間防衛, ④経済防衛, これら四つを軸にスイスの国防は展開されており, 強固な「ハリネズミ防衛体制」を整備しています。まず①の国防軍ですが, 憲法によって職業軍隊を持つ事を禁じていますので, 国民軍制度を採用し, すべてのスイス男子は兵役の義務を果たす為, 20才から50才までがこれに従事します。そして年令別に軍事教練を受け, 国から支給された武器弾薬を自宅で管理する仕組みになっています。そして射撃の腕が落ちないよう常に射撃訓練をする事が義務づけられています。②の心理防衛としては, 国民に愛国心を植え付ける教育を行なっています。③の民間防衛は, 20才から60才までの軍務外の全ての男子に対して民間防衛義務を課しており, 敵の攻撃から市民を守る為各地にシェルターが作られています。公共シェルターともなりますと, 入口の鉄の扉の厚さは40センチもあり, 中に入ると空気浄化装置や酸素ボンベ, 病院などもあります。又, 数百人を収容できる物ですと会議室があり, 外部から特設の通信器やラジオを通じ, 刻々と入

ってくる情報を分析したり、対策を考えたり、丁度、地下の大要塞といった感じです。④の経済防衛は、近隣諸国に輸送路の保障を求めたり、非海運国にもかかわらず商船を保有する等、必要物資の備蓄の増大が図られています。150年に亘り中立政策を維持する為に、スイス国民は紛争当事国に調停の場を提供したり、多くの国際会議の会場としての役割を果たす等、外交の面でも大きな努力をしてきた事は否定できません。更に特筆すべき事として国際赤十字活動があります。スイス人のアンリ・デュナンが赤十字の創設を訴えたのが始まりで、1864年それが結実して15ヶ国の参加のもと、ジュネーブ条約、赤十字条約が調印され、国際赤十字組織が正式に誕生したのです。今、中立を守っていく上で大きな要素となっている1つに、スイスの銀行の繁栄が挙げられます。スイスフランが強い通貨という事もあります。もっと大きな理由に秘密の保持があります。スイスの銀行には「貯蓄金庫に関する連邦法」というのがあり、顧客の秘密を漏した場合は最高6ヶ月の禁固、又は5万フランの刑事罰に処せられます。中立というのは一朝一夕に成るものではなく、それなりの厳しい努力が必要です。日本でも中立論がありますが、現実的にはなかなか難しい問題であり、皆様方はどう受け止められるでしょうか。

◆講演

“顔の形成手術と患者の心理”

第1口腔外科教授

深谷 昌彦 氏 (紹介 黒須君)



口腔外科医の行う形成手術(形を作る手術)には、口唇・口蓋裂(みづ口)のほか、先天的、後天的原因によって見られる下顎の前突や後退、左右対象など顎の発育異常から来る顔の形態異常があります。

これらは顎の発育が終了する17才から20才頃に手術による形態改善を試みます。手術は(1)顔の形態を正常域に(人並みに)形成すること。(2)消化器の第1関門である口腔の機能

(特に咀嚼力)の改善と云う2つの目的を持っております。この内形態について、私達は出来るだけ美しい顔を追求した時代があります。しかし、幾つかの患者さんを経験している間に、それが誤りであることに気がきました。

ある明るい娘さんの例ですが、著明な変形を手術し、本人家族ともに喜んで帰ったのですが、近所に買物に出て妹さんと間違えられてしまった事から、新しい顔を自分の顔として受容出来なくなりました。本人の image を出来る限り残さないと、なかなか新しい顔を自分のものと出来ないことがあります。

もう一つは患者さんの性格によるもので、「視線恐怖」「対人恐怖」があります。顔が醜いから人目を避けようとする。手術が終ると自信を持って行動的になる。これは普通の患者さんです。手術を終えてますます人目を避ける。これは形成手術を受けたことを人に知られたくないからです。形成手術後に神経症患者が多いとも云われます。

このような経験から、私は患者さんの心理の追求を始めました。目的は(1)手術前に「心理学的不適応例」を捜すこと。(2)そのような患者さんの指導法の解明です。

image調査、性格調査、神経症の検査、特別に作った質問票による調査、面接を繰り返して分析すると、殆どどの患者さんは術前に比べ術後は、情緒的に安定し、行動的で明るくなります。性格は不変と云う説もありますが、この手術では明らかに変わりますし、神経症患者の一部も正常化します。しかし、ほんの一部に性格がより暗く不安定に、又、神経症状の高ずる者のあることが明らかになりました。これは、術前から「社会不適応」「神経症」と診断される患者さんです。

これを解決する為には根気よく話し合い、信頼関係を作ることですが、加えて術前に術後の顔を写真で見せて納得を得ておくことが better と考えたのです。そこで数百例のデータをを用い、科学警察のモニタージュ写真技法を応用し、術後の顔を作ります。最近コンピューターに資料を入力することで、形態を作るようなプログラムにも成功致しました。結果はまだまだですが、全ての患者さんが、術後に身も心もすっきりと胸を張って社会に出られるよう、今暫く、メスを持つ手で心理学を紐解いてみようと思っております。

◆次回例会(6月18日)

クラブアンブリーの為、講演はございません。

◆次々回例会(6月25日)

今年度最終例会の為、講演がございません。